

吉野川市環境センターの煙突から見えるのは水蒸気（水滴）です

「煙突から煙が見えるが」というお問い合わせをいただいています。

煙突から煙のように見えるものは、排ガスに含まれる「水蒸気」が冷えて「水滴」となり、空中に浮かぶことで発生する自然な現象です。

排ガスは約 160℃の高温で排出されますが、大気中に出ると急激に冷却され、水蒸気が微細な水滴に変わり、白い煙のように見えます。

排ガスが冷えるまでに時間差があるため、煙突から少し離れた場所で白く見えるのが特徴です。（写真参照）

この現象は、特に冬場や湿度の高い日に起こりやすく、光の当たり方や背景によって黒っぽく見えることもあります。

当センターでは、排ガスをろ過式集じん器で処理し、有害物質を除去したうえで、法令や基準を遵守して排出しています。

運転中も常時監視を行っておりますので、安心していただけます。

